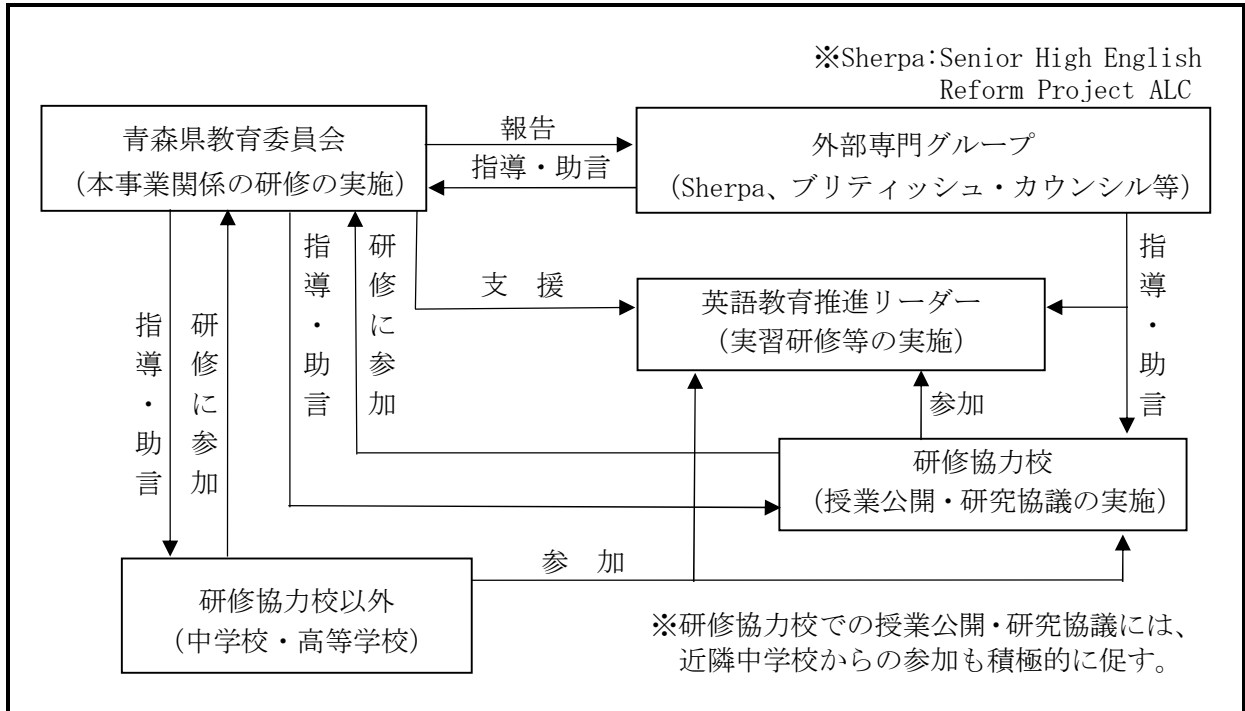


# 青森県英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 研修体制の概要



## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※現状は、平成28年度英語教育実施状況調査の結果に基づく。

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合  
(英検準1級程度以上)

現状では、高等学校は57%、中学校は21%である。平成26年度から実施してきた英検準1級以上の受験料補助とともに、平成28年度から開始したTOEIC-IIP受験を組み入れた研修を継続することで、外部検定試験の受験機会を増やし、担当教員の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。平成29年度においては、高等学校は75%以上、中学校は50%以上を目指すこととする。

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合  
(中学校3学年は英検3級程度、高等学校3学年は英検準2級～2級程度)

現状では、高等学校は38%、中学校は37%である。4技能を総合的に育成することを目標に、英語検定のみならず外部検定試験の受験を一層奨励する。平成29年度においては、中学校、高等学校ともに50%以上を目指すこととする。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況  
(設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

現状では、高等学校は設定100%、公表20%、達成状況の把握38%、中学校では設定79%、公表9%、達成状況の把握25%である。平成29年度は、研修会を通して県内先進校や研修協力校の事例を共有し、協議の場を設けるなどしながら、全ての項目において100%を目指すこととする。

④授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合

現状では、高等学校は33%、中学校は64%である。英語教育推進リーダーによる英語担当教員の指導力等向上研修や県総合学校教育センターでの研修等に加え、特に、高等学校においては、コミュニケーション英語Ⅲ等の高度な内容と言語活動を一体的に行うための指導法に関する情報を発信し、生徒の英語による言語活動の充実を図る。平成29年度においては、高等学校は65%以上、中学校は75%以上を目指すこととする。

#### ⑤パフォーマンステストの実施状況

現状では、高等学校におけるスピーキングテストの平均が年間0.5回、ライティングテストの平均は年間0.6回で、中学校はスピーキングテストの平均が年間2.9回、ライティングテストが年間1.8回である。平成28年度までの研修協力校の研究成果（パフォーマンステストを始めとする評価法に焦点をあてた授業モデルの開発）を、平成29年度の研修協力校が継承・発展させるとともに、英語教育推進リーダーとの緊密な連携を図り、平成29年度においては、高等学校ではスピーキング、ライティングとも平均で年間2回、中学校では年間5回を目指すこととする。

#### ⑥授業における英語担当教員の英語使用状況

現状では、高等学校は32%、中学校は50%である。高等学校においては、訪問指導の際に互見授業や英語力向上のための自己研鑽を奨励する。特に、互見授業等をきっかけとした担当教員間の密な連携や英語教育推進リーダーによる研修実習をとおして、英語による授業のノウハウの蓄積・共有と実践を図り、平成29年度においては100%を目指すこととする。中学校においても同様の展開を目指し、次期学習指導要領の実施を見据え、平成29年度において90%を目指すこととする。

#### ⑦県内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

英語教育推進リーダーや県総合学校教育センター及び県内6教育事務所の指導主事と連携し、平成29年度においては、高等学校はのべ16回、のべ300名、中学校はのべ32回、のべ470名、小学校はのべ18回、のべ390名の受講を目指す。特に、小学校及び中学校においては、県総合学校教育センターとの連携をより密にし、次期学習指導要領の実施に向けた講座の受講者数増加を目指すこととする。

### (3) 研修の体系と内容の具体

#### 平成29年度の研修

##### ①資質・能力を育む授業デザイン講座

(5月、中学校及び高等学校20名、県総合学校教育センター)

東京大学大学院教授 市川伸一氏による講義・演習を通して、これから必要となる資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」とは何か、その資質・能力を育成するためにはどのような授業が求められるのかを考える。2日目は各教科に分かれ、教科の特性を生かすための授業内容及び展開について理解を深め、授業をデザインする。また、アンケートにより研修の評価を行う。

##### ②小学校外国語活動研修講座

(6月、小学校30名、県総合学校教育センター)

文教大学教授 金森強氏による講義や演習を通して、外国語活動の指導の方向性を考える機会とする。コミュニケーション活動の充実を目指した指導について、実践発表等により体験的に学ぶことで、教科化へ向けた小学校外国語活動を推進していくための授業改善について考える。また、アンケートにより研修の評価を行う。

##### ③中学校英語指導法研修講座

(6月、中学校30名、県総合学校教育センター)

東京家政大学大学院教授 太田洋氏による英語教育法や言語活動に関する講義や演習、英語教育推進リーダーによる演習を通して、学習指導要領の趣旨に即した指導法について考えるとともに、学習状況調査や高校入学者選抜検査等についても考察し、指導の改善に役立てる。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ④研修協力校における研究協議会

(6月・9月・2月、中学校及び高等学校のべ105名、県立三本木高等学校及び附属中学校)

授業公開等を通して、英語による言語活動の実践例を共有するとともに、基礎力の定着に向けた中高連携のあり方やCAN-DOリストで設定した目標の達成状況を把握するためのパフォーマンステスト等について協議する。東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ⑤高等学校英語科言語活動実践講座

(6月、高等学校20名、県総合学校教育センター)

文教大学教授 阿野幸一氏による講義や演習を通して、高校英語が中学英語を基盤として成立していることを実感し、その定着を目指した授業実践例を学ぶ。2日目は、高校英語の授業で課題とされている「話すこと」「書くこと」に重点を置いた活動例を考えるとともに、評価を行い、授業改善に生かしていく。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ⑥英語コミュニケーション能力向上研修

(7月及び12月、中学校及び高等学校170名、県総合学校教育センター)

TOEIC-IP受験と受験に向けての講座を研修に組み入れた、中学校及び高等学校教員の合同研修をとおり、県全体の外国語担当教員の英語力向上を図る。また、研修協力校による詳細な実践発表等を通して、中高連携に関わる現状と課題や「6年間でいう英語教育」という視点を共有する。(株)アイ・シー・シー代表取締役 千田潤一氏(予定)等からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ⑦外国語指導助手指導力等向上研修

(11月、ALT及びALT担当教員200名、ホテル青森)

外部専門機関(大学)の講師(未定)による講義・演習や外国語指導助手と小学校・中学校・高校の外国語(活動)担当教員合同のワークショップ、各教員による事例発表及び小中高の連携についての研究協議等を行う。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ⑧英語担当教員の指導力等向上研修①②

(①11～12月、高等学校50名、②2～3月、高等学校50名、県総合学校教育センター)

外国語担当教員を対象に、英語教育推進リーダー(乗次久美子教諭及び熊谷透教諭ほか計4名)による中央研修に基づいた内容の研修を実施する。(①②それぞれにおいて、受講者を募り、3日間の研修を実施する。)また、アンケートにより研修の評価を行うとともに、教師の英語指導力の変容を把握する。

#### ⑨英語担当教員の指導力等向上研修③～ディベート研修会～

(12月、高等学校20名、県総合学校教育センター)

大阪府立大学助教 中川智皓氏(予定)及び英語教育推進リーダー(當麻進仁教諭)を講師とし、教員がディベート体験プログラムに参加することによって指導力向上を図るとともに、授業での実践について考える。また、アンケートにより研修の評価を行う。

#### ⑩外国語担当教員海外研修及び文化交流

(1月、高等学校6名、韓国パジュ英語村及び台湾高級中学)

パジュ英語村トレーナーによるワークショップを通して、4技能を総合的に育成するための実践的演習を行い、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。また、パジュ英語村での研修を受講した後、台湾の高級中学の生徒と文化交流を行う県内高校生30名に対して、プレゼンテーションの指導を行うとともに、台湾の外国語担当教員との交流を通して、外国語教育についての知見を広げる。また、アンケートにより研修等の評価を行う。

#### 平成30年度以降の研修

青森県教育委員会が主体となって、各研修におけるアンケートのデータを集約し、結果の分析及び研修成果の検証を行う。その結果を、県総合学校教育センター及び研修協力校、英語教育推進リーダー等と共有・協議し、平成30年度以降の研修や研究協議会の計画に反映させる。

目標管理については、前年度の英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、年度ごとに必要な修正を行う。

#### (4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組 (対象教員、日数)	外部専門機関等
4月		
5月	・資質・能力を育む授業デザイン講座 (中高、2日)	・東京大学大学院教授 市川伸一氏
6月	・小学校外国語活動研修講座 (小、2日) ・中学校英語指導法研修講座 (中、2日) ・研修協力校における第1回研究協議会 (中高、1日) ・高等学校英語科言語活動実践講座 (高、2日)	・文教大学教授 金森強氏 ・東京家政大学大学院教授 太田洋氏 ・東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 ・文教大学教授 阿野幸一氏
7月	・第1回英語コミュニケーション能力向上研修 (中高、1日)	・(株)アイ・シー・シー 千田潤一氏 (予定) ・英語教育推進リーダー (未定)
8月		
9月	・研修協力校における第2回研究協議会 (中高、1日)	・東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏
10月		
11月	・外国語指導助手指導力等向上研修 (小中高、2日) ・英語担当教員の指導力等向上研修① (高、2日)	・大学教授 (未定) ほか ・英語教育推進リーダー (乗次久美子教諭、熊谷透教諭)
12月	・英語担当教員の指導力等向上研修① (高、1日) ・英語担当教員の指導力等向上研修③ (高、1日) ～ディベート研修会～ ・第2回英語コミュニケーション能力向上研修 (中高、1日)	・英語教育推進リーダー (乗次久美子教諭、熊谷透教諭) ・大阪府立大学助教 中川智皓氏 ・英語教育推進リーダー (當麻進仁教諭) ・(株)アイ・シー・シー 千田潤一氏 (予定) ・英語教育推進リーダー (未定)
1月	・外国語担当教員海外研修及び文化交流 (高、8日)	・韓国パジュ英語村トレーナー ・台湾高級中学外国語担当教員
2月	・研修協力校における第3回研究協議会 (中高、1日) ・英語担当教員の指導力等向上研修② (高、2日)	・東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 ・英語教育推進リーダー (未定)
3月	・英語担当教員の指導力等向上研修② (高、1日)	・英語教育推進リーダー (未定)
【その他の取組】 中学校・高等学校の外国語担当教員の外部検定試験 (実用英語技能検定試験第2回及び第3回検定) の受験料を補助する。		

※資質・能力を育む授業デザイン講座、小学校外国語活動研修講座、中学校英語指導法研修講座、高等学校英語科言語活動実践講座、外国語担当教員海外研修及び文化交流は県費で実施する。

